

## 国立能楽堂 能楽鑑賞教室 ～ユネスコ無形文化遺産を皆さまに

能楽(能・狂言)は、600年以上演じ継がれてきた古典劇で、日本が世界に誇る舞台芸術です。能楽鑑賞教室は、能楽に親しみを持ち、その素晴らしさを体験していただきたいという趣旨のもとに企画されています。ぜひ一緒に鑑賞しませんか。



日 時 6月22日(土)14:00～  
場 所 国立能楽堂(千駄ヶ谷)  
演 目 柿山伏(狂言)・安達原(能)  
定 員 25名  
代 金 2,700円 脇正面席(団体割引価格)  
締 切 り 5月10日(金)  
申込方法 下欄参照(能楽鑑賞係と明記)



能「安達原 長糸之伝 急進之出 白頭」  
山階彌右衛門  
撮影＝前島吉裕

国文学科会

### 講座案内

## 過去からの提言

- 1 輪島達郎先生** 青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。琉球・沖縄の歴史と芸能を思想史の観点から追求しています。  
**6月8日(土) 琉歌の世界－教訓歌を中心に**  
琉球の定型詩である「琉歌」の中でとくに「教訓歌」に着目して、そこに流れる「命と平和」の思想を学びます。
- 2 松村伸一先生** 青山学院大学コミュニティ人間科学部教授。ラファエル前派など十九世紀英国唯美主義の詩と美術批評が専門。  
**7月13日(土) 近代文語翻訳詩が私たちに語りかけること**  
近代日本の文学者らによる西欧詩受容を、英文学の立場から探ると同時に、文語訳詩の魅力を再確認したい。
- 3 平野多恵先生** 成蹊大学文学部教授。日本中世文学、おみくじの文化史を研究。  
**9月14日(土) おみくじを読み解く－お告げとしての詩歌**  
日本人がおみくじとどう付き合ってきたかをお話するとともに、おみくじの和歌や漢詩の読み方も解説します。
- 4 鈴木直子先生** 清泉女子大学教授。元青山学院女子短期大学教授。専門は日本近代文学・女性文学など。  
**10月12日(土) 女性作家たちの未来予想図 家父長制を超えて**  
有吉佐和子から村田沙耶香まで、女性作家たちがどのような未来予想図を思い描いてきたか紹介します。
- 5 岡崎直也先生** 國學院大學・明治大学兼任講師。近現代日本の小説の方法について研究しております。  
**11月9日(土) 芥川龍之介『蜩気楼』－純粋小説の試み－**  
芥川龍之介『蜩気楼』を、語りの根拠を問う〈純粋小説〉の試みとして鑑賞します。
- 6 井上泰至先生** 防衛大学校人間文化学科教授。江戸文学と近代俳句を専攻しています。  
**12月14日(土) 女性が小説を読むということ－江戸の恋愛小説から**  
最初的女性向け小説を読み、演技の「恋」の世界を紐解いて、女性が小説を読む原初的な意味を考えます。
- 7 小林瑞乃先生** 青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。専門は日本近現代史、特に思想史・社会史・女性史が研究フィールドです。  
**1月11日(土) 言葉を紡ぐ－自分らしい在り方を求めて－**  
古今東西の言説を紐解いて、その生き方やメッセージから現代社会を自分らしく生き抜く手がかりを探ります。
- 8 梅垣千尋先生** 青山学院大学コミュニティ人間科学部教授。2005年から2021年まで青山学院女子短期大学英文学科、現代教養学科に所属。  
**3月8日(土) メアリ・ウルストンクラフトのフェミニズム**  
「フェミニズムの古典」といわれるウルストンクラフトの『女性の権利の擁護』を読み解きます。



時 間 13:30～15:30  
場 所 ジェンダー研究  
センター会議室  
(後期は場所の変更予定あり)  
定 員 20名  
会 費 10,000円(8回分)  
申込方法 右欄参照

日時や場所の変更等は、Web  
サイトでご案内します。  
各先生からのメッセージや、**単  
回の募集についても掲載します**  
ので、ご覧ください。

### 文学講座(通年)・能楽鑑賞会 申込方法

①住所②氏名③携帯番号④電話番号  
⑤卒年⑥学科を明記の上、**往復はがき**  
にてお申し込みください。

メールでの受付はしていません。**往復は  
がき**のみの受付とさせていただきます。

【往復はがきの宛先】1名につき1枚  
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25  
青山学院女子短期大学同窓会  
国文学科会

「講座係」または「能楽鑑賞係」と明記

【問合せ先】

agwjck.kokubun@gmail.com

### 報告

### 秋の文学散歩

石井桃子先生の居住スペースに収められて  
いるたくさんの蔵書、寄贈された貴重なコレ  
クションや原画の数々を、各部屋を回りながら  
丁寧に説明していただき、参加者の皆さんから  
の質問も途切れることがありませんでした。

また、お母様が青山出身の理事の方が、当時  
の制服写真を持参してくださりお話ができ、思  
い出深い一日となりました。



2023年11月21日 かつら文庫の方々と一緒に